

「くろさき荘」への繰出金4千万円めぐり

## 一度否決し、再提案で可決

第9回普代村議会定例会が12月16日開かれ、最終本会議で累積赤字約1億3千500万円を抱える国民宿舎くろさき荘への4千万円の繰り出しに反対を招き、一般会計補正予算案を賛成3人、反対6人で否決。村は繰り出し分を財政調整基金の積み立てに回すこと

で再提案。全会一致で可決されました。そのほかの4特別会計の補正予算など11議案については、提案された議案すべてを原案の通り可決しました。一般質問には3人が登壇。くろさき荘の経営問題や子育て支援対策、漁業振興について議論が交わされました。

### 普小の耐震補強に5千万円を計上

▽一般会計補正予算

補正額406万3千円を減額し、歳入歳出の予算総額を22億2376万1千円にする補正予算を提案しました。

歳入は、国庫支出金の安全・安心な学校づくり交付金2464万円、地域活性化・緊急安心実現総合交付金1417万9千円などをそれぞれ増額しています。

歳出は、教育費の普代小の耐震補強工事関連に5128万円、年金対応システム開発業務委託料598万5千円、総務費の情報連絡施設難聴解

消事業78万3千円、財政調整基金積立金に4000万円、民生費の福祉灯油券の支給費120万円などをそれぞれ増額しました。

### 1億8千万を減額

▽国民保険診療施設特別会計補正予算

補正額1億678万4千円を減額し、歳入歳出の予算総額を2億862万4千円にしました。歳入は医科歯科両診療施設勘定の一般会計からの

### 発議1件を可決 知事などに提出

県立久慈病院の常勤医師確保と充実を求める請願が提出されたのを受けて、発議案1件を可決。岩手県知事と岩手県医療局長に対して意見書を提出することを決めました。請願の趣旨と要望項目は次の通りです。

#### 岩手県立久慈病院の常勤医師確保と充実を求める意見書

- 1 麻酔科、耳鼻科の常勤医師を確保すること。
- 2 呼吸器科、産婦人科の医師の数を減らさないこと。
- 3 久慈地域の基幹病院として一層の充実、強化を図るため、入院病床の削減を行わないこと。
- 4 救急医療のより一層の充実を図ること。

### 主な議会の動き

●10月23日・下閉伊北部地域に関する研究会立ち上げ懇談会(岩泉町)▽25～26日・ふ

繰入金1億780万1千円などを減額。歳出は両施設勘定の公債費1億885万1千円などを減額しています。

- 11月5～6日・岩手県沿岸的障害児施設組合議会議員研修会(宮城県仙台市ほか)
- ▽10日・久慈地区市町村議会連絡協議会研修会・交流会(久慈市)▽17～19日・東部町村議会議長会先進地視察研修会(山形県・庄内町)、県議会議長会第3回政務調査会・研修会・臨時総会、全国町村議会議長大会(東京都)▽25日・農林水産大臣表彰受賞祝賀会
- 12月2日・村内現地視察
- 1月5日・平成21年普代村成人式▽7日・新年交賀会▽11日・普代村消防出初式
- 2月6日・普代村しいたけ推進協議会20周年記念行事

村議会12月定例会での深渡宏村長の行政報告



### 09年度の重点施策は何か

大上 浩史 議員

### さらなる財政健全化を目指す

深渡 村長

● 本村の基幹産業である農林水産業の不振が続く中、行政の役割として、村民の生活安定を第一に考えなければならぬ重大な局面を向かえて

いるものと思う。については、新年度予算編成の重点施策は何か。また、このほど策定した普代村教育ビジョンの具現化に向けた新年度の方針示

せ。 ● 新年度予算編成の第一のポイントは、5年間取り組んできた「行財政改革プログラム」の目標を達成させること。身の丈を超えるようなこととは許容されないもので、黒字

の継続は必須とし、併せてくろさき荘会計の累積赤字縮減に徹底した取り組みを行うなど、財政の健全化がさらに進む予算編成としたい。 次に、小学校1校体制に向けた事務・事業に万全を期すことが重要と考える。また、村税の納税環境は悪化の一途であり、滞納額も増加する中、納税者の不公平感の充満は避けられないことから、整理、減少に最大の努力を注ぎたい。

水産振興については、行政、漁協、漁家が一体となって何が求められているかを的確に判断して、漁業の復活、再生を図っていききたい。 また、遊休農地対策、普代駅での観光客受け入れ対策、ごみの減量化対策、災害防災対策にも力点を置きたい。 建設事業については有利な起債対象事業を優先的に実施していききたい。さらに国が進める「地域活力基盤創造交付金」(公共事業に対して国が支援するための交付金)の活用により公共事業を進めたい。 教育ビジョンの具現化については諸課題をクリアしながら村の総合計画に位置づけ、進めることとなるが、当面は小学校の統合に全力を注いでいきたい。

● くろさき荘の累積赤字は平成18年度末で1億7千万円となり、村は平成19年度3月に2度にわたって総額3千5百万円を休養施設事業特別会計の赤字補填として一般会計から繰り出している。 さらに平成20年度において

も4千万円ほどを累積赤字に補填をする予定と聞いているが、貴重な財源を赤字の穴埋めに向けていいのか大いに疑問を抱いている。補填に当たっては、村民の理解を求めるべきと思うがどう考えるか。 ● くろさき荘の累積赤字に対して、一般会計から補填することは苦渋の選択である。この処理の方法や今後の経営方針などについては議会全員協議会や議会答弁などで再三議会に対して説明し、理解を求めてきたものと思っている。 累積赤字については、年次ごとに一般会計から補填して、平成20年度末には9千万円台にまで縮減させ、平成21年度末までには今後のくろさき荘のあり方について民間への譲渡、売却、貸し付けなども視野に入れ結論を出していきたい。 また、住民からの理解の求め方については、新年早々に立ち上げる予定の「くろさき荘経営検討委員会」で住民の意見を聴くことで住民の理解を求めて行きたい。

民間への譲渡、売却、貸し付けなど、今後のあり方が問われている国民宿舎「くろさき荘」



### 一般質問

12月 定例会

12月定例会の一般質問は12月16日に行われ、3議員が質問しました。内容を要約してお知らせします。